平成19年度第2回千葉県博物館協議会議事録

日　時　平成20年1月28日（月）　13:30～15:30

場　所　千葉県立中央博物館会議室

出席者　（委　員）

明石委員《議長》　吉野委員　小川委員　水島委員　秋田委員

大澤委員　川津委員　河原委員　西村委員　田島委員　**（博物館・文化財課）**

渡部文化財副課長　眞田美術館長　佐久間中央博物館長

佐久間現代産業科学館長　阪田関宿城博物館長　吉本房総のむら館長　渡辺安房博物館長

日　程

開　会

博物館あいさつ

議　事

（１）諮問事項

「博物館における地域振興のあり方について」

（２）その他

その他

閉　会

＜博物館あいさつ＞

地域文化振興は、地域との連携が必要であり、親しまれる博物館を目指している。

＜議事説明＞　（１）諮問事項　「博物館における地域振興のあり方について」

議　　長：

中教審の生涯学習分科会でのキーワードは、知の循環型社会を造るということで、学芸員をキャリアアップし、専門職性を持たせるプランが出ている。

全国で唯一図書館がなかった長崎県に先月中央図書館が開館し、盛況を博している。今、箱物行政と誤解されるかもしれないが、県独自の文化行政やスポーツ行政を絡めた事柄の見直しが必要である。

文部科学省の予算で学校支援地域本部事業が行われている。

県独自のモデルをつくり、博物館がどれだけ地域に貢献できるかディスカッションし、３月末に答申をまとめたい。

事務局より前回の協議会の内容、博物館の現状及び課題等について説明

議　　長：

博物館の現状、７つの課題、振興するための４つの視点を説明していただいた。

委　　員：
　１０館１１施設あった博物館が７館になった。減少したことを肯定しているように受け取れるが。

委　　員：
　減らすということを肯定したというのではなく、博物館設置構想を再検討するということではないか。

委　　員：
　答申の中に、減少することに対する危惧を盛り込む必要があると思う。

委　　員：
　議会によると、現代産業科学館が県から市川市へ移譲されるとのことである。
　全県的視野に立ってネットワークを密にし、市町村立になってもタイアップすることにより、県としての博物館行政を貫いていくことを明確にすることが必要であり、予算など現実面で可能性のないことを唱っても意味がないと考える。

委　　員：
　これ以上減らされては困る、という趣旨である。

委　　員：
　現代産業科学館が県から市川市へ移譲されるのか。

文化財課：
　市川市から要望が出されて、現在協議中である。

委　　員：
　取り組みについて、これだけの課題に対応できるのか。現在でも多い業務の中で、誰がこの新たな業務をやるのか。職員の意識改革のためならやってみる価値はあるが、答申がお題目にならないようにしたい。
　メディアを利用し大河ドラマや連続ドラマで取り上られるような取り組みをしたら良いのではないか。
　地域企業・NPO・ボランティア・市との連携が取り上げていることは良いが、国の機関や大学との連携も取り上げてもらいたい。
　博物館・美術館と学校は教育委員会の中で所管されていながら、中学・高校生が授業の

一環として来館しないのはなぜなのか。

議　　長：
　答申には魂を入れなければならず、また、課題をもう少し選択集中できないだろうか。そして地域振興、教育行政に関するご意見をいただいた。

委　　員：
　質の高いサービスの提供が必要だが、事業は資金無くしてできない。社会的に生み出される付加価値をどのように帰属させるか、付加価値の共有・分配を明確にしないと、連携・協働もうまくいかないのではないか。

委　　員：
　質の高いサービスの提供及び、財政的な裏付け・資金確保が必要ではないか。

委　　員：
　企業、NPO への関わりは必要だが、権利・知的財産がどこに帰属するのかを整理する必要がある。

委　　員：
　千葉県内には千葉大学・東京大学・歴史民俗博物館などの研究機関がある。お互いの知的財産を活用しあう姿勢を打ち出しても良いのではないか。
　県の博物館以外の試験研究機関と連携して、内容をレベルアップしていく必要があるのではないか。
　生物多様性の問題など、周辺の社会的な動きと連動して、研究・教育上の情報交換が必要ではないか。

委　　員：
　県の知事部局の試験研究機関、国の研究機関・大学などとの連携による質の高いサービスを追求するのが大切ではないか。

委　　員：
　伝統及び近代産業の情報発信、教育・研究機関との連携は欠かせない柱となるので、この点に関して一工夫して欲しい。

委　　員：
　県の施策で「あすのちばを拓く１０のちから」にある「千葉学」の体系化に寄与する役

割を取り入れるべきではないか。
また、予算のことにも触れるべきではないか。

委　　員：
　子供の時から千葉の良いところを見せていくのが大切ではないか。移動文化講座的なことをやっていただきたい。観光立県を提唱する以上、千葉県の歴史・文化などを見せる企画をたてて欲しい。

委　　員：
　子供が現地で新しい発見をすることで、知の循環型社会ができるのではないか。良い研究成果を転用できるようにすると良いのではないか。

委　　員：
　地域では、いすみ鉄道を利用し、大多喜城などを文化・観光資源として大いに活用している。また、かつての県立施設や県の埋蔵文化財収蔵庫などを、地域の観光資源としてさらに発展的に活用することを考えている。
民間企業との関係は経費の関係なのか、今後の会議で明らかにして欲しい。

委　　員：
　博物館は減る方向にあるが、県内博物館の全体的なネットワークを謳っていただきたい。多くの方に来館していただきたいということで、職員の意識改革・発想の転換・民間からの人材の採用なども考えるべきではないだろうか。

委　　員：
　地域の自然・文化を見直せば取り上げるものは多い。地域で取り組んでいることとかにも目を向けてはどうか。
　地域企業からの資金援助を得る考えも必要である。

委　　員：
　鴨川シーワールドと海の博物館は連携している。イルカの出産率の高さなど、民間と県立のトップレベルの連携である。

委　　員：
　地域振興の博物館を発信地にし、それにより、地域の文化・教育の発展がプラスされれば良い。
　地域に合ったイベントを行うことで、地域の人たちが地域を再認識すると思う。

委　　員：
　事業を行うには、予算の裏付けが不可欠であることを明記すべきである。

委　　員：
　基本的な姿勢は、「こうあるべきだ」という答申を出すのか、予算の関係で「少し減らせ」というものを出すのか、確認したい。

委　　員：
　どのようにしたら質の高いサービスの提供ができるのかが基本姿勢である。伝統文化の情報の発信・近代産業の情報の発信・研究・教育の情報の発信などの３ つのミッションを作る。そのはじめに質の高いサービスの提供を据え、その後に課題を絞り込んでいく構成である。

委　　員：
　「こうあるべきだ」ということか。

委　　員：
　その通り。
　「知のネットワーク作り」・「教育事業のネットワーク化」、最後に財政的な処置も明記する。
　３年計画位の見通しを示さないと実現性はないだろう。

委　　員：
　社会教育施設が民間委託とか指定管理されているが、そのほうが活性化されているのか。

委　　員：
　指定管理された「房総のむら」の入館者は増加している。また、「安房博物館」は指定管理されていないが入館者は増えている。

委　　員：
　民間委託するとコストダウンにはなるが、活性化には繋がらない。活性化に繋がっているケースもあるが非常に少ない。

委　　員：
　博物館に指定管理者制度を導入するならば、簡単に気安く行ける交通機関の整備も必要

ではないか。

議　　長：

　結果として意識改革できるような仕組みを作れないか、新しいミッションをお互い確認していく。ミッションを実行していくためには、ネットワーク作りをしていかないと実現できない。

　第３回の委員会で精査し答申としたい。

終　了